

# 化学療法クラスター

(代表：薬学研究科 化学療法学講座 杉本芳一)

近年、分子生物学を始めとする基礎研究によるがんの本態の解明が大きく進んでいる。がんの特異的な生存・増殖機構の解明は、がんで変化している分子の同定へとつながり、その阻害薬が開発されるようになってきた。そして現在、がんの分子標的治療が種々の進行がんや血液腫瘍の治療にめざましい効果を上げている。また、多くの製薬企業ががん治療薬の開発に力を入れているのも周知の事実である。

本クラスターでは、この大学院 GP において、がんの基礎生物学から、抗がん剤の分子標的、抗がん剤のスクリーニング、抗がん剤開発、臨床試験、新しい治療の導入、標準レジメンまでを統合して、4つのプログラムの中で学生に提供する。

国内外の第一線の基礎研究者・臨床研究者の熱気を肌で感じ取ってほしい。

- (1) 講義と、引き続いての round table discussion (必修)  
がんの基礎生物学、抗がん剤の分子標的
- (2) がん化学療法の国際シンポジウムへの招待 (希望者)  
新しい抗がん剤、抗がん剤の分子標的  
世界における抗がん剤開発、臨床試験、新しい治療の導入
- (3) がん薬物療法の臨床医による講義 (希望者)  
今の日本のがん薬物療法、新しい治療の導入、標準レジメン
- (4) 他の研究室のラボミーティングへの参加 (希望者)

本クラスターは、「芝クラスター」の一つであり、下記の研究室が含まれる。

キャンパス	所属	研究室責任者	研究室 URL
芝共立	化学療法学	杉本 芳一	<a href="http://www.pha.keio.ac.jp/laboratory/laboratory15.html">http://www.pha.keio.ac.jp/laboratory/laboratory15.html</a>
信濃町	先端医科学研究所	福田 恵一	
信濃町	内科学	日比 紀文	<a href="http://web.sc.itc.keio.ac.jp/medicine/index-jp.html">http://web.sc.itc.keio.ac.jp/medicine/index-jp.html</a>
信濃町	外科学	北川 雄光	<a href="http://web.sc.itc.keio.ac.jp/surgery/ggs/study_group/index.html">http://web.sc.itc.keio.ac.jp/surgery/ggs/study_group/index.html</a>
信濃町	整形外科	戸山 芳昭	<a href="http://www.keio-ortho.jp/">http://www.keio-ortho.jp/</a>
信濃町	小児科学	高橋 孝雄	<a href="http://web.sc.itc.keio.ac.jp/pedia/index-jp.html">http://web.sc.itc.keio.ac.jp/pedia/index-jp.html</a>
信濃町	産婦人科学	青木 大輔	
信濃町	耳鼻咽喉科学	小川 郁	<a href="http://www.keio-ent.jp">http://www.keio-ent.jp</a>

## (1) クラスター必修：講義・ディスカッション・ラボツアー

疾患分子生物学特論の最初の3日間では、がんの基礎生物学から、抗がん剤の分子標的、抗がん剤のスクリーニングまでを視野に入れた講義を行う。

化学療法クラスターの学生は、以下の3日間の日程のどれか1日を選んで、午前中の講義とそれに引き続いてのround table discussionに参加する。これは必修。

また、医学研究科の学生に対しては、その後に、薬学研究科の紹介・化学療法学講座の紹介とラボツアーを行う。

### 1. 日程

5月14日（金）、5月21日（金）、または5月28日（金）

### 2. 1日のスケジュール

A（9:20～12:30）： 下表の疾患分子生物学特論の講義を受講

5月14日、5月21日は2コマ

5月28日は2限の1コマのみ

B（12:30～13:30）： 当日の講師及び教員を交えて、round table discussion

C（13:30～14:30）： 薬学研究科の紹介、化学療法学講座の紹介とラボツアー

### 3. 必修要件

医学研究科の学生

どれか1日に、A、B、Cを通して参加する。

薬学研究科の学生

どれか1日に、A、Bを通して参加する。

### 4. 日程調整

化学療法クラスターに配属された学生のうち、薬学研究科、医学研究科それぞれで担当者を1名ずつ選ぶ。担当者は、化学療法学講座まで連絡すること。その後、各日のround table discussionの参加人数についての調整をお願いします。

#### 「疾患分子生物学特論」

月・日・曜日	時限		タイトル	講師	所属と職名
5月14日(金)	1	講義	がん分子標的治療	杉本芳一	薬学部・教授
5月14日(金)	2	講義	がん治療とバイオマーカー	杉本芳一	薬学部・教授
5月21日(金)	1	講義	がんとウイルス疾患	野口耕司	薬学部・准教授
5月21日(金)	2	講義	がんとオートファジー	片山和浩	薬学部・助教
5月28日(金)	2	講義	がんとテロメア	清宮啓之	(財) 癌研究会癌化学療法センター分子生物治療研究部・部長

## (2) がん化学療法に関する国際会議への招待（希望者のみ）

大学院在学中に、第一級の国際シンポジウムを体験しよう。

2010年12月2日（木）～3日（金）、お台場のホテル日航東京において、The 15th International Symposium on Cancer Chemotherapy（第15回国際癌化学療法シンポジウム）が開催される。このシンポジウムでは、毎年15～20人の日米欧のがん研究

者が、新しい抗がん剤、抗がん剤の新しい分子標的、世界における抗がん剤開発、臨床試験、新しい治療の導入などについて講演する。このシンポジウムに、化学療法クラスターで参加を希望する学生を無料で招待する。希望者は直接化学療法学講座まで申し出ること。

過去のシンポジウム等については、ホームページを参照のこと。

<http://iscc.umin.jp/>

### (3) クラスター自由選択講義・セミナー (希望者のみ)

慶應義塾大学薬学部公開講座 B において、最新のがん薬物療法についての講義を行う。土曜日の午後、13時50分より16時50分の講義である。

この講義は、社会人薬剤師や製薬企業の人などを対象にしたものである。これを、大学院 GP の大学院生にも開放する。今の日本のがん薬物療法、新しい治療の導入、標準レジメンなどを学ぶいい機会である。希望者は、あらかじめ化学療法学講座まで申し出ること。

「慶應義塾大学薬学部公開講座 B」

月・日・曜日	時限		タイトル	担当者	所属と職名
9月11日(土)	13:50 ～16:50	講義	がん薬物療法:薬剤師 さんに求められる基 礎と臨床	中根実	武蔵野赤十字病院血液腫瘍内 科・副部長

### (4) ラボミーティングへの参加 (希望者のみ)

クラスター内で、それぞれの研究室のラボ・ミーティング等に参加を希望する場合は、研究室責任者が承認した範囲内において、事前連絡して守秘義務を負った上で、参加することができる。個人情報等諸般の事情により、研究室責任者が参加を認めないミーティングもあるので、必ず事前に研究室責任者に直接問い合わせること（連絡先は、上記の各 URL 等を参照）。